

ニュースレター No.1

— 2018年6月17日(日) —

【 概 要 】

今年度の「ありみね高校生学びの森」には、8校から19名(男子10名、女子9名)の応募があり、また講師は、15の高等学校等から20名の先生方に引き受けていただきました。

平成30年6月17日(日)に、第1回目の「学びの森」を高校生18名、講師16名の参加で開催致しました。今年の有峰は、思っていたよりも雪が少なく3月、4月に暖かい日が続いた為か植物(山菜等)の成長も例年より2週間程度早い状況にありました。

午前10時に、有峰の御神木である有峰大助(ミズナラの木)の前で、例年どおり「始まりの会」を実施。有峰森林文化村青山次長の挨拶のあと、参加者全員の自己紹介、講師より日程説明及び野帳の使い方の指導を受け、2班に分かれて調査を開始しました。

午前の活動は、猪根平にある旧有峰ハウス別館周辺で、哺乳類、両生類、植物の植生について調査しました。なお、両生類の調査と植物の植生調査を、A班・B班の2グループに分け、30分ごとに交代で実施しました。

午後の活動は、冷タ谷遊歩道の森林の生態系を調査しました。

哺乳類調査

<ネズミ>

- ・例年どおり、前日にシャーマントラップ(ネズミ捕獲用罠)を20個設置し、4匹を捕獲(ヒメネズミ1匹、アカネズミ3匹)しました。
- ・先生からは、尻尾の長さで種類の違いが分かること、ヒメネズミは身体の割りに尻尾が長いことと、目がくりくりしているところに特徴があると説明を受けました。

両生類調査 午前

- ・先生から調査開始前に、天候、気温、水温、pHのデータを野帳に記録するよう指導を受けました。天候は曇り、気温23.1℃、水温12.7℃、pH6.6(弱酸性)で、水質は両生類の生存に問題のないものでした。
- ・旧有峰ハウス別館裏ため池で、クロサンショウウオとヒダサンショウウオの幼体を捕獲しました。
- ・昨年発見出来たハクバサンショウウオは、今回見つけることができませんでした。
- ・モリアオガエルの卵塊を発見しました。

植物調査

- ・永遠の木(ブナとミズナラがからみあって生長している木)の森でそれぞれの木を測定しました。ま

ず、巻尺を使い自分の胸の高さで、木の周囲を測りました。その結果、森の中での一番大きなブナは周囲が 150 cmあり、測定値から樹齢推定表を使って調べたところ、測定したブナは 130 年以上経過している事が分かりました。

- ・永遠の木の森の中で、照度計を使って光の強さを測定しました。

森林の生態系

冷タ谷遊歩道で、高校生 2～3 人に講師 1 人が付いて、林内を歩きながら自然観察をしました。

- ・冷タ谷遊歩道北口付近のミズナラ林は、乾いた地面を好む。
- ・トチノキは、水気の多いところを好む。
- ・タニウツギは、幹がしなり雪に耐えられるため、急斜面を好む。
- ・マンサクの葉は、ひし形をしている。
- ・あがりこのギャップ(枯れた木の後から 3～5 年後に新しい芽が生えてくる事)では樹木の種類を確認しながら、高木、亜高木、低木などの階層構造を確認し、動物との関係についての説明を受けました。

夏休みに実施する第 2 回目は、2 泊 3 日で調査することから多くの動植物を捕獲・採取して観察ができることを期待しています。

活動MAP

平成 30 年 6 月 17 日 (日)

